414-11

石河光哉畫伯編纂

西歐宗教名畫集

第五輯目次

三位一体（三色版）　アルブレヒト、デユレル
豫言者エレミヤ　ミケランゼロ
エゼキエルの幻想（三色版）　ラファエル
洗者ヨハネを斬首す（三色版）　ビウビス、ド、シアヴアンヌ
ペテロ　エル、グレコ
聖者の肖像　エル、グレコ
天使部分畫　フラ、アンゼリコ
天使の群　ベノツツオ、ゴツツオリ
ルーテル、フレデリツク三世、メランクトン　ルカス、クラナツハ
デユレル自畫像　アルブレヒト、デユレル

東詰南橋堀長區南市阪大
飯田十字館發行
電話南六四九九番　振替大阪一八七三二番

大正 14.6.27 内交

始

題名、三位一体

作者、アルブレヒト、デューラー Dürer.（一四七一―一五二八）

所在、オーストリヤ、ウイーン、帝国美術館 Imperial Gallery, Vienna.

題句、「父と子と聖霊の恵みと共にあらん」「人々よ、汝等は、何故に、汝等の信仰を、ルターに、教皇の権威を、ローマに、与えるか」「聞きなさい、神よ、聞きなさい、ローマ、ルター」

解説、ルネッサンスの絵画は、ルネッサンスの絵画であるが、その頃 Brabant 地方は、ルネッサンスの絵画は、ルネッサンスの絵画であるが、ルネッサンスの絵画は、ルネッサンスの絵画であるが、ルネッサンスの絵画は、ルネッサンスの絵画であるが

畫題、 豫言者エレミヤ

作者、 ミケランゼロ。Michelangelo（一四七五—一五六四）

所在、 ローマ。ヴチカン。シスチンチアベル壁畫。Sistine Chapel, Vatican Roma.

解説、

（岩田十字社發行）

題目、エゼキエルの幻想

作者、ラファエル Raphael.（一四八三—一五二〇）

所在、フィレンツェ。ピティ宮殿。Firenze. Pitti.

聖句、黙示録四章一節。

説教、聖書を開いて、エゼキエルの幻想を、ヨハネの黙示録を、ペトロの第二書を、ユダの書を、ヨブの書を、ダニエルの書を、ヨエルの書を、ゼカリヤの書を、マラキの書を、ルカの福音書を、マタイの福音書を、マルコの福音書を、ヨハネの福音書を、使徒行伝を、ローマ人への書を、コリント人への第一書を、コリント人への第二書を、ガラテヤ人への書を、エペソ人への書を、ピリピ人への書を、コロサイ人への書を、テサロニケ人への第一書を、テサロニケ人への第二書を、テモテへの第一書を、テモテへの第二書を、テトスへの書を、ピレモンへの書を、ヘブルの書を、ペトロの第一書を、ヨハネの第一書を、ヨハネの第二書を、ヨハネの第三書を、ユダの書を、黙示録を、……

※聖書を開いて、エゼキエルの幻想を、ヨハネの黙示録を、ペトロの第二書を、ユダの書を、ヨブの書を、ダニエルの書を、ヨエルの書を、ゼカリヤの書を、マラキの書を、ルカの福音書を、マタイの福音書を、マルコの福音書を、ヨハネの福音書を、使徒行伝を、ローマ人への書を、コリント人への第一書を、コリント人への第二書を、ガラテヤ人への書を、エペソ人への書を、ピリピ人への書を、コロサイ人への書を、テサロニケ人への第一書を、テサロニケ人への第二書を、テモテへの第一書を、テモテへの第二書を、テトスへの書を、ピレモンへの書を、ヘブルの書を、ペトロの第一書を、ヨハネの第一書を、ヨハネの第二書を、ヨハネの第三書を、ユダの書を、黙示録を、……

※聖書を開いて、エゼキエルの幻想を、ヨハネの黙示録を、ペトロの第二書を、ユダの書を、ヨブの書を、ダニエルの書を、ヨエルの書を、ゼカリヤの書を、マラキの書を、ルカの福音書を、マタイの福音書を、マルコの福音書を、ヨハネの福音書を、使徒行伝を、ローマ人への書を、コリント人への第一書を、コリント人への第二書を、ガラテヤ人への書を、エペソ人への書を、ピリピ人への書を、コロサイ人への書を、テサロニケ人への第一書を、テサロニケ人への第二書を、テモテへの第一書を、テモテへの第二書を、テトスへの書を、ピレモンへの書を、ヘブルの書を、ペトロの第一書を、ヨハネの第一書を、ヨハネの第二書を、ヨハネの第三書を、ユダの書を、黙示録を、……

※聖書を開いて、エゼキエルの幻想を、ヨハネの黙示録を、ペトロの第二書を、ユダの書を、ヨブの書を、ダニエルの書を、ヨエルの書を、ゼカリヤの書を、マラキの書を、ルカの福音書を、マタイの福音書を、マルコの福音書を、ヨハネの福音書を、使徒行伝を、ローマ人への書を、コリント人への第一書を、コリント人への第二書を、ガラテヤ人への書を、エペソ人への書を、ピリピ人への書を、コロサイ人への書を、テサロニケ人への第一書を、テサロニケ人への第二書を、テモテへの第一書を、テモテへの第二書を、テトスへの書を、ピレモンへの書を、ヘブルの書を、ペトロの第一書を、ヨハネの第一書を、ヨハネの第二書を、ヨハネの第三書を、ユダの書を、黙示録を、……

聖母子と聖ヨハネ

作者　シャヴァンヌ（Pierre Puvis de Chavannes）

所在　パリ、ルーブル美術館（Paris）

国籍　仏蘭西

製作年　一八六八年

寸法　高さ四百三十二糎、巾二百、ヴェルサイユ宮殿

解説　中沢弘光

ピュヴィス・ド・シャヴァンヌは、一八二四年生れ、一八九八年歿。仏蘭西の代表的な装飾画家として、壁画を主体とした作品を多く残した。この作品は、ルーブル美術館所蔵の油彩画。

シャヴァンヌは、ローマ賞を受けてイタリアに留学し、帰国後、パリの市庁舎などの大壁面装飾を数多く手がけた。彼の作品は、古典的な主題を、平面的で穏やかな色彩と、明確な輪郭線によって表現する。遠近法や立体感よりも、画面全体の調和と、静謐な雰囲気を重んじる。

この作品は、聖母子と聖ヨハネを、ほぼ等身大に近い大きさで描いた。三人は、浅い岩場のような場所に、ゆったりと腰を下ろしている。背景は、ごつごつした岩肌と、遠くに広がる海と空。人物の輪郭は、やわらかな線で囲まれ、影は最小限に抑えられている。

聖母は、赤い衣と、青緑色のマントを身にまとい、幼子イエスを膝の上に抱いている。イエスは、裸で、聖母の方を向いて、小さな手を伸ばしている。聖ヨハネは、毛皮の衣を着て、十字架を持ち、イエスを指さしている。三人の顔は、いずれも、穏やかで、どこか遠くを見ているような、内省的な表情である。

シャヴァンヌの色彩は、全体に、灰色がかった、淡い色調である。赤や青緑は、ごく控えめに、画面のところどころに、点在するように配されている。この、抑えられた色彩が、作品全体に、静かな、詩的な雰囲気を、与えている。

シャヴァンヌは、ルネサンス以前の、フレスコ画や、ビザンチン様式の、モザイク画を、深く研究していた。この作品の、平面的な構成や、輪郭線による表現、そして、宗教的な主題の扱いは、まさに、彼が、古典から、学んだものである。

シャヴァンヌは、後の、ナビ派や、象徴主義の、画家たちに、大きな影響を、与えた。ゴッホは、この作品を、「現代の、最も、美しい、宗教画の、一つである。」と、評した。ゴッホ自身の、『夜のカフェテラス』や、『星月夜』などの、輪郭線の、強調や、色彩の、抑揚の、ヒントを、この作品から、得ていたと、考えられる。

ゴッホは、シャヴァンヌの、この作品を、ルーブル美術館で、実見した、ことが、知られている。ゴッホは、この、聖母子の、穏やかな、雰囲気を、自分の、作品に、取り入れようと、していた、ことが、手紙から、うかがえる。

シャヴァンヌの、この、聖母子は、ゴッホの

題名、ゼ　テ　ロ

作者、エル、グレコ。El Greco.（一五四〇—一六一四）

所在、スペイン。エスコリアル。Escurial.

解説、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

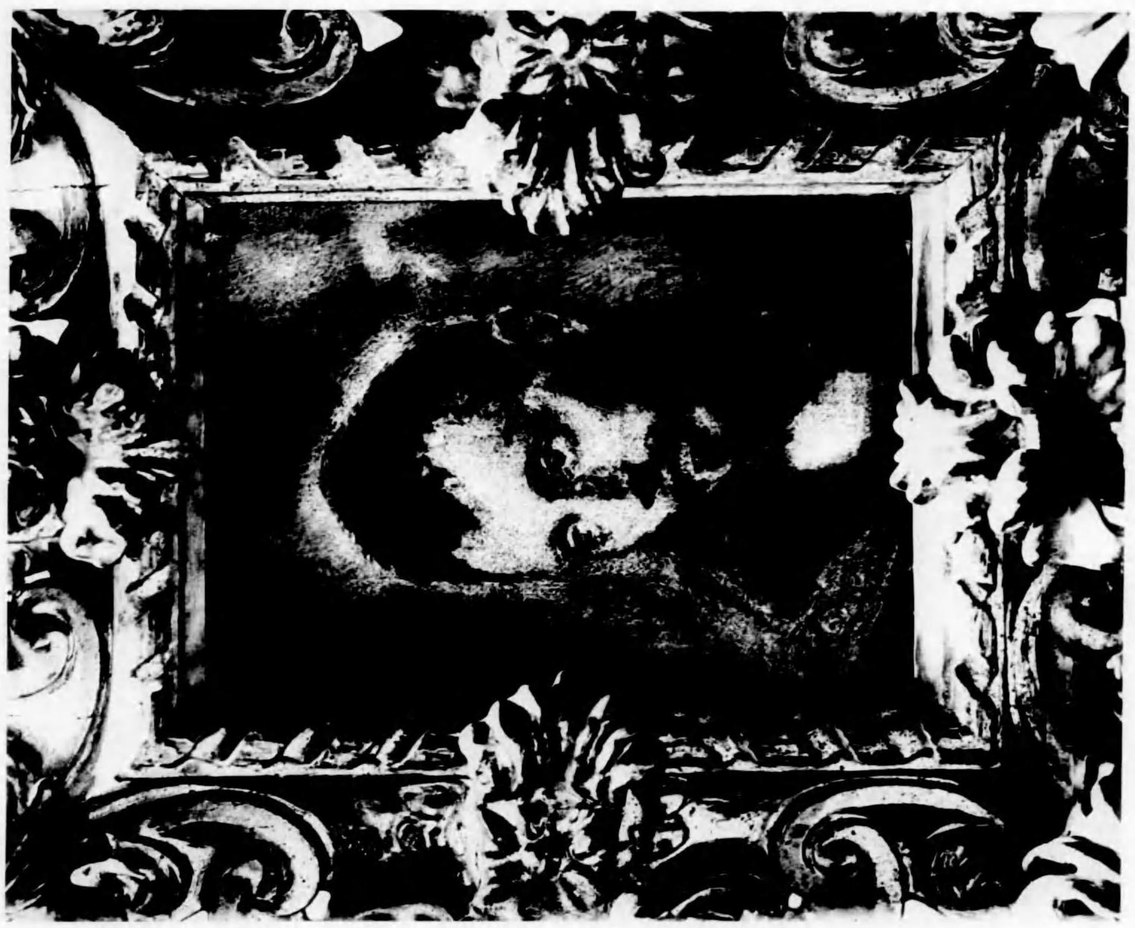
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



主題、聖者の肖像

作者、エル・グレコ El Greco.（一五五〇―一六一四）

所在、スペイン、マドリッド Madrid.

解説、メリヤスの様な色調で「聖者の肖像」を描いている。彼は「聖者の肖像」を描いている。ロヨラ聖の肖像（部分）の様な色調で描いている。

[illegible]

題名：天使部分

作者：フラ・アンヂリコ。 Fra Angelico.（一三八七—一四五五）

所在：フイレンツエ。サン・マルコ教堂 S, marco Firenze.

解説： [illegible]

（行目第十四版）

題名　天使の群

作者　ベノッツォ・ゴッツォリ Benozzo Gozzoli.（一四二〇—一四九七）

所在　フィレンツェ　パラッツォ・メディチ Palazzo Medici.

解説　ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂、その北壁の東方三博士、その行列の中央を飾る天使の群像である。

十五世紀の初めフィレンツェ市の実権を握ったメディチ家は、その本拠パラッツォ・メディチの礼拝堂を、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の模倣として、ベノッツォ・ゴッツォリに命じて、東方三博士の行列を中心とする壁画を描かせた。ゴッツォリは、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の壁画を模倣するにあたって、その主題を、「キリストの誕生」から「キリストの礼拝」へと変更した。そのことは、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の壁画が、教会のキリスト教的な性格を強調するものであるのに対して、メディチ家の礼拝堂の壁画は、世俗的な性格を強調するものであることを示している。そのことは、ゴッツォリが、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の壁画を模倣するにあたって、その主題を、「キリストの誕生」から「キリストの礼拝」へと変更したことからも、容易に推測されるであろう。

ゴッツォリの壁画は、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の「天使の合唱」の主題を、その北壁の東方三博士の行列の中央に移したものである。天使の群像は、時代を反映して、ふんだんに金箔を使った豪華絢爛たるものである。

作者の意図するところは、東方三博士の行列の中央に、ふんだんに金箔を使った豪華絢爛たる天使の群像を配することによって、当時の人々に、メディチ家の権力と財力とを誇示することにあったであろう。

ゴッツォリは、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の「天使の合唱」の主題を、その北壁の東方三博士の行列の中央に移したことによって、ラテラノ宮殿のトスカナ礼拝堂の壁画の、教会のキリスト教的な性格を、メディチ家の礼拝堂の壁画の、世俗的な性格へと、変ずることに成功したのである。

（竹山喜千十郎）

畫題、ルーテル。フレデリツク三世。メランクトン。

作者、ルカス、クラナツハ。Lucas Cranach. (一四七二—一五五九

所在、ミウンヘン畫堂。München. K. Gl. Pinakothek.

解說、獨逸の人に、偉い畫家は？問へば、ルカス、クラナツハの名を指摘する。若人が見る處によれば、クラナツハはホルバインやデュレルよりも一段落ちると思ふけれど、獨逸の各美術館には多くのクラナツハの傳作があるし、見て行く中段々親しみ出て來て、又、クラナツハ、ホルバインやデュレルの理想主義的傾向に比すれば、穿過的、感覺的な感じのする、平民的作品であるから多くの人に記憶されるのであらう。

彼は思慮深い畫家であると同時に、幾多の諷刺的な表現、例へば地獄や極樂や怪物のうさうな想像を面白く面白く奇異に描いてゐる。しかし質に於てどうしてもデュレル程の氣宏と大きさがない。

彼はルーテルの為門育像畫家と云つていい位、澤山のルーテル育像を描いてゐる。ウイツテンベルグのルーテルハウスにはクラナツハによつて描かれた幾枚の育像、ルーテル夫人及姫の育像等も遺つてゐる。トマスリンゼー著「ルーテルの生涯及び事業」の文、處々にクラナツハの事が出てゐるのを見ればルーテルとの親密な關係にあつたことが知られる。かのルーテルの崇拜者であつた我がアルブレヒト、デュレルも度々ルーテルの育像を描きたいと望んでゐたが、遂に奇ふ機會がなかつた。しかしデュレルの描いたメランクトンの育像銅版畫は、しいことではあるが、我等は其處に偉人の奇な閃輝を想像して反つてデュレルがルーテルを描けなかつたことを個人と思はない。

クラナツハの筆によりてせめて和等はルーテルの習々の顏を知ることが出來る。

「ルーテルはルカス、クラナツハを相國つて「キリスト及び偽キリストの受難誌」（Christus und Antichrist）なる小冊子を印行してゐる。之は法王をキリストの生活を對照して對を意ましめたる印畫の連續であつて何度を問けても一到の對照畫が同時に見られる、様にある。對照の一例を挙げれば、弟子の足を潔へるキリストと是指を挙げて接吻させつゝある法王等……ルーテルは曰うた「之れ平人に善き表であつた」と（リンゼ著ルーテルの生涯、藤井武氏譯本より）

編者はやルーテルの信仰を云ふする必要はない。たゞ彼が繪畫、又繪畫を想像する特徴があつたと云ふことを特記したい。このことは現代日本の偏狹なクリスチアンの學問心に訴へて眼で必要がある。特にルーテルが畫の才能を力めて養つたと云ふ事も、かの宗教革命は人間の普通生活の神聖をも認めた。その如く當時ユルンベルヒを中心として、藝術、家が宗教、畫よりも平民生活の美を發見して行つた處にルーテルの思想との大なる關係があつたのである。ルーテルは決して現代の牧師宣教師がする様にして藝術を特別はしなかつた事も、それ故にデュレルもクラナツハもこの神の人と行動相同するところが出來たのである。

※ツレデリツク賢侯はルーテルの保護者として、又聽へ手同と所に住み、屢々ルーテルの消息を聞き彼と交通を交したキリスタの人であつたとさい。

※メランクトンは又ルーテルの好作信で大學者であつた。若人は彼の容貌を見ても愛さずにはをられない。宮に思慮なる學者と云ふ感じが深いルーテルが何よりも多づ能、に宗教改革者であるゝ爲にたくてならぬ人物であつた。

かのライプチヒ論爭に於て、ルーテルに作ひし人はメランクトンであつた。

※當てチアレス皇帝が福音主義壓迫の折、羅馬教ジョンは皇帝親見に使用すべき福音主義の「信仰箇條」の製作をルーテル及メランクトンに教の油劑を塗て來た。それ、良夫クラナツハに委囑して當時一流たる小兒マグダレナの像を描かしめ、夫を慰めん心盡りであつたと云ふ。ルーテルは彼年老父の死日にも合はなかつたが、始終、椅子より見得べき場所にこの子供の繪を掲げ、彼を歡下せる其愛らしき小き顏によつて聽まされ慰められたさふことである

議會の宗論の結果ルーテルは一輪の花をかゞ一論にたとふふことであるが、かゝる癒の餘祈ある人に、之繪畫は忘れられてたかつたことを知つた。

快心の境涯たる故。

書類、 テヱレル自畫像

作者、 アルトレヒト、デユレル Albrecht Dürer. (一四七一—一五二八)

所在、 ミウハイン ピナコテク Pinakothek Munchen.

解説、 絵画を愛する人は誰でもその名を知らぬものはないであらう（絵画鑑賞）。彼は「ドイツのラファエル」と呼ばれてゐる。彼は「ドイツのラファエル」と呼ばれてゐる。

デユレルは、ドイツ中部ニユルンベルクの西方一哩半の、ゲルゲンバッハ村に生まれた。父は金細工師であつた。デユレルは、ニユルンベルクの金細工師、ヒルパルトの弟子となつた。彼は、ヒルパルトの家で、ラテン語を習つた。彼は、ヒルパルトの家で、ラテン語を習つた。

彼は、ヒルパルトの家で、ラテン語を習つた。

彼は、ヒルパルトの家で、ラテン語を習つた。

終